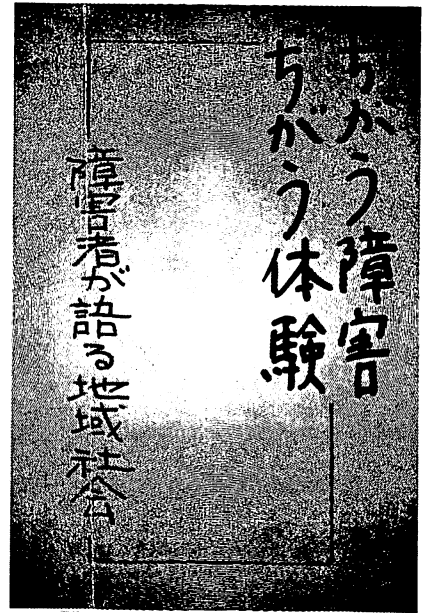


# サロンあべの

サロンあべの No5  
発行日 昭和61年11月15日  
発行者 <サロンあべの> 屋学委員会



へサロンあべのVでは、昭和六一年十月十八日「障害者が語る地域社会」と題して、十五名が新しい出会いと語り合いの場をもった。

聴力障害者は外から、障害がわからないうため話しかけても返事をしないと誤解されて、特に幼ない頃、つらい思いをしたと語る川辺貴ス氏。

そして、養護学校へ九年間通った後、在宅生活を送る斎藤孝文氏は、文字板に指も走せながら、そり体験と語ってくれた。

また、春山満氏は筋力低下と闘いながら、障害者に一番必要な情報を常に提供する障害福祉情報センターの代表として、そり視覚と、先頃、行われた車イス大集

合(展示会)の工夫、そして予定している銭湯の活用を紹介された。特に、現在すでにある施設を利用し、周囲の人々の理解を促すという例は、入浴の問題にあたり、解をもつて、例えは、有効な方法といえよう。

最後に、畑谷終一氏の語ったフィリピンの施設の現状に關するお話も非常に興味深かった。

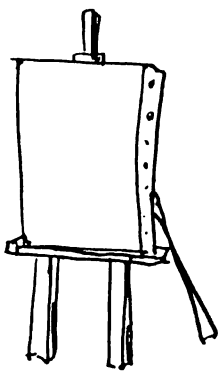
## PROFILE

### 斎藤孝文氏

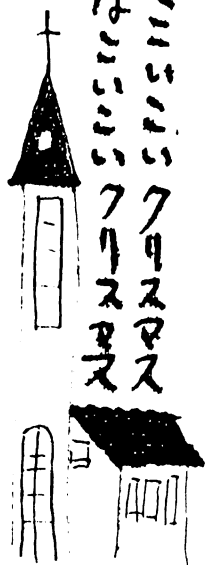
生年月日はいつ?と聞くとあててごらん」と笑いなから文字板に指を走りせる斎藤さんは、昭和三十七年一月二十六日生まれの水瓶座、B型、六才から十五才まで堺の養護学校に通い、その後在籍宅生活を送ってきたが、重い障害にもめげずに、電動車

イスを駆ってB型の明るさと行動力を發揮。二三年前には、東京・新宿で、障害者仲間、芝居に「ヘビの役」で出演。これはとても楽しかったことの一つという。もっとも車イスでは、十半位前上新庄の駅で階段降り落ちて額を四針も縫うケガにあって、ちんちんと鳴り出した踏切の真中で立ち往生したりと危ない目にも会っている。

さて、昨年は甲子園へ阪神・広島戦を見に行ったという野球ファン、斎藤さんの応援するチームは西武と阪神。清原が好ミソ、巨人は嫌い。そして女性には、フンとすました人、煙草を吸う人、嫌いな顔、顔はどうでもい、からり心ややさしい、純粋な人がいいという斎藤さんの目はいつも澄みきっている。



### 早くこいこいクリスマス みんなこいこいクリスマス



子供の頃、枕元に首下を置いておいた。幼稚園で、ジングルベルを唄った。小学校のとき、フリーを作った。青春のあったなはか。お夢dreaming of a White Christmas... と二人でロマンチックなイヴを過ごした。はたまた、派手に陽気に喧しく飲んだ。

クリスマスのおい出はいろいろ人それぞれ。そこで、今年にはへサロンあべのVでクリスマス、新しい思い出を作りませんか。

日時 昭和六一年十二月六日(土) 一時〜三時  
場所 赤穂コミュニティセンター二階  
会費 一〇〇〇円  
贈物 当日プレゼントの交換をします。各白三〇〇円位の贈物をご用意下さい。

申込 富田(六九)二〇二八



### 納佳木後記

前号では欲張ってたくさん記事をお載せられたので、お詫言ひたい。構成になり

大へん申しわけありませんでした。以後気をつけます。十月例会の席で寄せられたカンパは一四〇〇円。どうもありがとうございます。十二月六日(土)はへサロンあべのVのクリスマス会です。